

要請書「核兵器と戦争のない未来を願って」

原爆被爆・終戦から65年がたちました。戦争は体験した人たちの心の中で、今もなお深い傷となって残っています。原子爆弾は一瞬で十数万人の尊い命を奪っただけでなく、その後長い間、人々の体と心を傷つけてきました。被爆者の方々は、その苦しみを抱えながら、核兵器の恐ろしさと平和の尊さを伝えてこられました。しかし、世界には地球上の全ての生き物を何度も殺せる核兵器が今も存在しています。核兵器は、私たちの幸せを奪うものでしかありません。そんなものは、いないのです。

今、核兵器をなくしたいと、世界中の多くの人々が願い、行動を始めています。今年5月に行われた核不拡散条約(NPT)再検討会議では、核兵器をなくすための具体的な行動計画の策定を行うことが合意されました。ここ山口県では、平和市長会議に県内全ての自治体が加盟されました。広島県に次ぐ100%の加盟は、私たちの誇りであり、本当にうれしいことです。

原爆被爆・終戦65年の今、私たちは核兵器をなくすための新たな出発点に立っています。平和市長会議100%加盟を機に、山口県に住む市民と県内自治体が手を取り合って、核兵器と戦争のない平和な未来を世界中の子どもたちにリレーしていけるよう、次のことを要請します。

記

1. 平和市長会議に加盟する県内全自治体が平和の取り組みを実施する際、ご理解とご支援をお願いします
2. 非核・平和宣言をされている山口県において、「核実験を行った国々に対する抗議行動」や「市民に対する平和学習会や啓発活動」などの具体的な行動を、積極的に行っていきましょう。
3. 非核三原則の法制化を、国に対して訴えていきましょう。
4. 山口県の被爆者の援護活動を行っている財団法人山口県原爆被爆者支援センターゆだ苑の活動に、ご理解とご支援をお願いいたします。

以上

2010年7月22日
山口県ピースアクション実行委員会
実行委員長 有吉 政博

構成団体

生活協同組合コープやまぐち
山口県原爆被害者団体協議会
(財)山口県原爆被爆者支援センターゆだ苑
山口県連合青年団
山口県生活協同組合連合会